



TITLE:

雑報

AUTHOR(S):

CITATION:

雑報. 地球 1931, 16(2): 155-158

ISSUE DATE:

1931-08-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/183929>

RIGHT:

榎、烏屋野の逢竹、小山田の彼岸櫻、梅護寺の珠數樹櫻、小木の御所櫻、岩船の饅頭岩、笹川流、宮堅八幡宮社叢、岩船郡栗島等の記録である、中にも饅頭岩と其化石及栗島の岩石地質は、いかにも珍らしく讀んだ。(藤川)

○明治初年北海紀聞

清野謙次編 岡書院發行
定價二圓八十錢

京大醫學部教授清野博士は其親戚安場保和家の土藏から得られた北海道や千島への明治十七年保和氏の巡回日記、明治九年千島三郡取調書、金子堅太郎子の建議書等を集められたもので、これによつて北海道開拓の初代の様子がよくわかる。北海道史の好資料である。

雜報

○鐵鑛の世界産額

鐵鑛の世界産額は一九二七年一億七千噸なりしに、一九二八年一億七千二百噸となれり、英國は一九二九年に二百萬噸を増産したるも、一九一三年に比して八二%六、一九一三年には世界の總産額中の九%なりしも一九二八年に六%に減じたり、獨逸はエルサスローレンを失ひ一九一三年に世界の産額の一六%をしめしに、一九二九年には三%八に激減し、ために鐵鑛の輸入は千三百八十萬噸に達した、今一九二八、九年の主要鐵産國を表示せん。

雜報

ドイツ 六、七五〇、〇〇〇噸
アメリカ 七、二六〇、〇〇〇噸

エルサスローレン	三、三六〇、〇〇〇	ニュージーランド	一、四四一、〇〇〇
ベルギー	一、四〇〇、〇〇〇	キニバ	六五三、〇〇〇
佛蘭西	五、五九〇、〇〇〇	チリ	一、八〇〇、〇〇〇
(エルサスローレンを含む)		アルゼリヤ	△三、六五〇、〇〇〇
イギリス	二、四三〇、〇〇〇	チニニス	九七〇、〇〇〇
伊太利	八七〇、〇〇〇	英領印度	二、四八〇、〇〇〇
ノルウェー	七四〇、〇〇〇	日本	△七三〇、〇〇〇
オーストリア	一、八六〇、〇〇〇	朝鮮	△四四〇、〇〇〇
ポーランド	六九〇、〇〇〇	滿洲	△六五〇、〇〇〇
瑞典	二、四八〇、〇〇〇	濠洲	八七〇、〇〇〇
スペイン	六、五五〇、〇〇〇	總計	△二五、四〇〇、〇〇〇

△印は一九二八年度

第二表 主要國別年産額

	一九一三年	一九二七年	一九二八年	一九二九年
獨逸	三、九一〇、〇〇〇	六、六六〇、〇〇〇	六、四七五、〇〇〇	六、七五〇、〇〇〇
ベルギー	一、五〇〇、〇〇〇	七、四〇〇、〇〇〇	七、一八〇、〇〇〇	七、三二〇、〇〇〇
フランス	三、九六〇、〇〇〇	四、四六〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	四、五九〇、〇〇〇
イギリス	二、三三〇、〇〇〇	二、三六〇、〇〇〇	二、四四〇、〇〇〇	二、四三〇、〇〇〇
アメリカ	三、九七〇、〇〇〇	三、七九〇、〇〇〇	三、一八〇、〇〇〇	三、一六〇、〇〇〇

○世界鐵鋼生産額

世界の鐵鋼界は大戦終熄と共に一時一齊に不振に陥りしが其後世界産額は増進するにも拘はらず

鐵鋼に對する需要は却て減少し、從つて市價の低落は最近愈甚しくその結果は一九二九年を轉機として銑鋼共に産額減少するに至つた。之を表せるに、

年	銑	鋼
一九一三	七七、七二〇、〇〇〇噸	七四、八三〇、〇〇〇噸
一九二六	七七、六七〇、〇〇〇	九一、七九〇、〇〇〇
一九二七	八五、二七〇、〇〇〇	一〇〇、一八〇、〇〇〇
一九二八	八六、九六〇、〇〇〇	一〇八、二二〇、〇〇〇
一九二九	九六、一八〇、〇〇〇	一一七、八五〇、〇〇〇
一九三〇	七九、〇〇五、〇〇〇	九四、七〇五、〇〇〇

○ソヴィエツト聯邦のダンピング

ロシアが木材を

廉價に販賣するのでフィンランドは大に困つてゐる、一九三〇年になつて著しく木材の輸出が減じたのみでなく、ヘルシングフォルスではソヴィエツト製の廉價な砂糖や羅紗地が輸入されて市價を擾亂してゐる。ソヴィエツトでは其品物が極めて廉價に出来る。何となれば個人には國定の報酬を與へて働かすと同時に産物はすべて國家管理にうつるからである。他國は之を不當廉價だといふけれども、ソヴィエツトにしてみれば不當ではない、他國の經濟組織が不當なから高い價になつてゐるのだといふかもしれぬ。

フィンランドの一製陶株式會社はソヴィエツトから木材を購入して、自國の木材を買はないことを認めた、豊富な木材國たるフィンランドでさへ、さうした廉價な木材が輸入され

うるとしたら、其影響は多きい、小麦を安價にシカゴの市場に賣り出して、米國の農民に危惧を與へたロシアは、本年になつて其棉花をランカシヤに賣り出した。七萬俵の大量が一週間にランカシヤに着荷した。過去七ヶ月間に約百萬磅の露棉が來たが三月二日から七日迄の間に記録的數量五萬四千俵に上つた。然るにアメリカ棉は僅に七千俵しか入らなかつた。アメリカの棉花業者はこのことに非常に危惧を持ちだしてゐる。

マンチエスターの商人の云ふ所によると露棉は品質テキサス物に匹敵する程良好である。勿論埃及棉には及ばないが、露棉四割と米棉六割を混ぜると、とてもよい絲になるといふことである。價は米棉よりも封度につき四分一片乃至二分一片は安價だといふことだ。

さうしてロシアの棉花は數年前四十萬俵しか出来なかつたけれども、今日は百二十五萬俵の大量を産出するといつてゐる、これも慥かなことはわからぬけれども、ソヴィエツトの統治が完成するにつれて、尨大なロシアがたゞ一つの單體として國家的貿易を替むやうになつたとき、之に驚かされるのは獨りフィンランドや、アメリカの棉花製造者のみではない筈である。果してこの棉花がロシアで出来るものであらうかどうかいづれにしても驚くべき事實である。

○濠洲向本邦陶器

近年濠洲に陶器製造を開始したけれども搖籃時代であるから、多くは輸入である。最近二年間

左の如くに輸入された。

磁器	一九二八	一九二九
英國	二三七、八五〇磅	二三四、七二八
日本	七一、三〇六	九三、二三〇
ドイツ	四六、四〇九	四〇、三六二
チエツコ	三九、七四六	三〇、六一四
其他	七、七七七	八、七九九
計	四〇三、〇八八	四〇七、七三三

英國 三一一、九〇四 三〇六、五七三
ドイツ 一四、八〇五 一〇、六一七
チエツコ 五、七八六 五、四一八
日本 二、一一六 三、七八七
其他 六、四六八 七、三五三

即ち英國品七三%、日本品一三%、ドイツ六%、致須國五%、其他四%である。英國のは大小各種で上等品である。しかし日獨品は大物よりも小型で下級品が多い、英國品は磁器よりも陶器、他國は陶器よりも磁器が多い、こゝで日本のもののみと、チーセツト、サラダセツト、コーヒセツト、各種皿、スカーツ皿、チーボツト(茶呑)各種ボール、花器、其他裝飾品である、英國品は特惠待遇で従價三割九分に對し、日本品は六割四分の高率である、けれども日本陶器と名古屋製陶兩會社は著しく進歩し、英國品と對抗してゐる、下級品では意匠はわるいが、價格でドイツ、致須兩國に對抗してうりひろめてゐる。

本邦品下等もので白地に金線の入ったカップソーサーは一

打が三志三片から五志三片に達し上物は中流の家庭に下流及地方に廣く用ひられる、他國ものはとても、日本品に勝てないといふ、近頃日本の品物が段々増進し、英、獨品は退縮してゐる傾であるから、税關が高くても見込があるらしい、たゞ日本商人が競争して賣り崩をしないやうにすればよいがと心配する、この國では米國趣味よりも地味な英國ものを喜ぶからそのつもりでやつてほしい。

○李保羅に關する藤田元春先生の感違ひ

「地球」第十五卷第二、三號に文學士藤田元春先生の「利瑪竇の坤輿萬國全圖に就て」と云ふ論文が出た。その中に次の様な一節がある。即ち「その後基督教徒たる支那人李保羅(恐く李之藻ならん)なるものが、教士の助力を行て(得て)第四版をつくつたといふ。予はこの四版を疑ふ。第三版既に李之藻の助力で出来てゐるからである。中略

以上はブラッドレーの意見であるが、幸に京大本のうちに利瑪竇の自序がある、それを見る方が早くて且つ正確であるから今之を左に摘記する、利瑪竇自身の云ふ所は左の如くであつて、李保羅の第四版なるものについては何等の言及がない。何となればこれが第三版であるからである」と云ふのであるこの文句はどう云ふすぢあひのものかと云へば同論文を讀んだ者には明かであらうが參考の爲に申せばかうである。

即ち *Geographical Journal* 1917 Oct. に J.F. Baddeley の書つた "Father Matteo Ricci's Chinese World Maps, 1534-1604" と云ふ論文の中に利瑪竇の世界地圖作製出來が詳く述べられてゐるが、それに依ると、第一版が廣東肇

慶府で一五八三年に、第二版が南京で一五九九年に、第三版が Lingouan の請により北京で一六〇二年に出たがこの世界地圖は非常に歡迎されて人々の需用をみたすことが出来なかつた。その *a certain Christian, aided by our people, made another version.* 一とあり、即ちこゝで第四版が或クリスチアンによつて出来たと云ふのである。この或クリスチアンに就ては同論文の他の所に *Li Paulo* だとある。さて問題はこの *リ・ポーロ* にある。藤田先生はこの *リ・ポーロ* を李之藻だらうと考へられた。ところが實は *ポーロ* と云ふのは徐光啓の洗禮名である。*Li* (藤田先生の所謂李) は *Li* と *Li* の花文字の類似から來た感違ひに相違ない。このことは座右の參考書一冊を繰るの勞をいとはないなら忽ち氷解することであるから初學者の私が敢て云ふを要しないであらう。だが然し誠に不思議なことは徐光啓の洗禮名が *ポーロ* であることは少く其東洋史を一度繙いた人々に取つて頗るつきの常識であるもれ承る所によれば藤田先生は徐光啓にも關係の淺からぬ地理學史の大家であられるさうであるにも拘らず *Li* と來たから直ちに李之藻だらうと推定されたのは返す／＼も不可思議である。例へば *Li* とあつても *Paulo* とあつたら一應徐光啓ではなからうかとの問を起して見る必要はなからうか。ついでに申して置くが李之藻には *Li Liou* と云ふ洗禮名があつた *Paulo* とは一寸感違ひが大きいやうに思へる。そこで藤田先生のバッドレーが云ふ第三第四版が同一のものだと云ふ唯一の理由は李之藻がその兩版作製にあづかつたから、即同

一人が再度地圖作製にあづかつたから第三版と第四版は同一のものだと云はれたのである。處が藤田先生の同一人と考へられたのは不圖も全く別人であつた。従つて藤田元春先生の第三版第四版同一説の根據理由は跡片もなく解消したわけになる猶藤田先生は傍證として京都帝大所藏の利瑪竇與萬國全圖に於て「李保羅の第四版なるものについて何等の言及がない」ことをもつてせられたが、これは亦京大の同圖に第四版に就て何等言及のないのが當然、あつたら夫こそ不思議に相違ない、何となら京大にある同地圖は一六〇二年版即所謂第三版である。第四版はいづれその後に出来たものである。現今の豫約出版と違つて將來出るか出ないか分らない第四版に就て第三版で云々する筈がない。之は確に乏證或はむしろ暴證であるかも知れない。以上私は藤田先生のバッドレー氏の第四版否定の理由は先生の簡單なる感違ひから出た何等否定の理由を構成しない理由を述べたのでバッドレー氏の所謂第四版の有無を論じたのではない。藤田先生に取つてはこんなことはどうでもいゝ問題かも知れない。併し若しこゝに徐光啓を研究する我々餘友があるとすれば徐光啓が耶穌教士の助力を得て世界地圖を作つたか否かは重大問題であるに違ひない。これが私の身の程も顧みず鈍筆を驅つた所以である。後學の人々に取つては先學の單なる感違ひと雖もその及ぼす影響は決して少くない。願はくは藤田先生連にこの感違ひを正されんことを。(日本大學文學部史學科學生 鮎澤信太郎)